

農作業事故防止 ～「声かけ」で高まる安全意識～

農作業死亡事故は、近年、約 350 件と高止まった状態で発生し続けています。そのうち、農業機械による事故が約 6 割、80 歳以上の高齢者による事故が約 5 割を占めています。

▼声かけで安全意識の向上を!

農作業中の方に声をかけたり、仲間同士で声を掛け合ったりすることによって、農作業事故の防止につながります。

気をつけてね!



声かけ①

『農作業機械は安全運転で!』

トラクターやコンバインを運転する時は、カーブや道幅に注意しましょう。機械の大型化により、死角が拡大しています。



声かけ②

『しっかり休んで! 熱中症予防』

こまめな休憩と水分補給をして、熱中症に注意しましょう。涼しい服装にも心掛けて。



声かけ③

『見回り危険! 大雨は要注意』

大雨や強風の中の田んぼの見回りは、増水した水路などがとても危険です。なるべく控えましょう。



声かけ④

『不安定! 脚立はしっかり固定して』

無理な使い方をせず、開脚防止チェーンをしっかりとかけ、天板に乗らないようにしましょう。



声かけ⑤

『周囲に注意! 草刈機は油断禁物』

小石などの飛散には防護を徹底し、傾斜面の不安定な場所には小段を設置して草刈しましょう。

万ーのために

労災保険に加入しましょう

農業者の方でも一定の条件を満たせば、労災保険(特別加入制度)に加入できます。詳しくは下記までお問い合わせください。

JA レーク伊吹 経済部 営農企画課
☎ 0749-63-2101

● 植え付け

本葉 4〜5 枚になり、葉が込み合

● 種まき・育苗
種まきは 8 月下旬〜9 月上旬が適期となります。縦横各 5 センチ穴のセルトレイ等に育苗土を入れ、1 穴に 3 粒を、指先で軽く押さえ、浅いくぼみをつけたところにまき、3 ミリ程度の軽い覆土をします。発芽がそろってきたころ 2 本立てに間引き、本葉 2 枚のころ 1 本立てに間引きましよう。

● 畑の準備

● 畑の準備
種まきの 2 週間前には、1 平方メートル当たりふりかけ堆肥工コを 300 グラム、苦土消石灰 120 グラム・粒状ようりん 50 グラム・60 グラムを施し、良く耕しましょう。定植 5 日前に基肥として、1 平方メートル当たり野菜有機 282 を 80〜120 グラム、油粕 50 グラムをうね全面に施し、軽く耕してから畦立てをします。

● 栽培特性

● 栽培特性
冷涼な気候を好み、生育の適温は 15〜20 度と比較的適温の幅が狭く、キャベツなどに比べると、まき時は 8 月中下旬〜9 月上旬に限定されます。軟腐病などの土壌病害が出やすいので、3〜4 年は連作しないようにし、堆肥の施用し畑の排水を良くして栽培することがポイントです。

白菜の準備・栽培について



● 追肥

● 追肥
1 回目は本葉 10 枚のころ、1 株当たり燐消安加里 10 グラムをうねの肩にまいて、鍬で土と混ぜてください。2 回目は 1 回目の 20 日後、同量を反対側のうねの肩にまいて、鍬で土と混ぜましょう。その後、生育状況を見ながら必要であれば 3 回目の追肥を施します。

● 収穫

● 収穫
結球している頭の部分を押さえて、固くしまっているようなら収穫出来ません。球を斜めに押し倒し、外葉との間に包丁を入れて切り取りましよう。

● 畑での貯蔵

● 畑での貯蔵
球が完成すると耐寒力が弱まります。霜が強くなると球が傷むので、外葉を寄せて先をしぼっておくと長期貯蔵できます。

● 間引き(株定め)

● 間引き(株定め)
活着して本葉が 6〜7 枚に、盛んに伸び出したころ、育ちの良いものを 1 本立てにします。引き抜くと根を傷めるのでハサミで切り取り、株元がぐらつかないように少し土寄せをましよう。

● 球が完成すると

● 球が完成すると
球が完成すると耐寒力が弱まります。霜が強くなると球が傷むので、外葉を寄せて先をしぼっておくと長期貯蔵できます。

